



トム・ウェイツ 素面の、酔いどれ天使



パトリック・ハンフリーズ 著 金原瑞人 訳 東邦出版 45.20€

フランスでもカルト的な人気を誇るトム・ウェイツ。そんな彼の最新日本語版評伝『トム・ウェイツ 素面の、酔いどれ天使』を編集・監修させていただいた城山隆と申します。

同書の13章でも触れられている通り、79年の数カ月間、ウェイツはパリで過ごしたようですが、ちょうど同じ頃、ジュンク堂パリ支店もオープンされたそうです。当時、現在とは違う場所にあった同店のドアを開いたか否かは定かではありませんが、若きウェイツが店の前を往来した可能性はあり得ます。

そして、およそ30年の時を経て、“本”という形で、ウェイツがパリのジュンク堂に入店しました。さらにほぼ機を一にして“生身”の彼もパリに還ってきて、質の高いライブ・パフォーマンスで人々を魅了しました。私も、そのなかのひとりです。日本から飛んでゆき、形容しがたいほど良質の“饗宴”を享受しました。拙文ですがパリ公演初日のレポートをしたためましたので、ご興味の向きはのぞいてみてください。

http://www.toho-pub.net/tomwaits_in_paris.php

パリ公演は2日間ありましたが、その2日目を堪能されたのがジュンク堂パリ支店の秋山あいさんでした。逡巡の末、最終的に参加することを決めたきっかけが最新日本語版評伝『トム・ウェイツ 素面の、酔いどれ天使』だったそうです。公演を観られた1週間ほど後の8月初旬、東邦出版の“トム・ウェイツ PR ページ”

http://www.toho-pub.net/pr_tomwaits.php に以下のような文を寄せていただきました。

トム・ウェイツのパリ公演があると知った時、その値段から躊躇し、その場で購入しなかった。もちろん、すぐに後悔して、チケットを手配しようと試みてはみたものの既に完売。今度は本当にあきらめざるを得なかった。即決するべきだった……。自分の優柔不断な性格にしばらく気落ちしながらも毎日をすごしていたが、コンサートの1週間前に『トム・ウェイツ

素面の、酔いどれ天使』が入荷してきた。7月17日のことだ。

コンサートに行けないのであれば、せめて本だけでも、と読んでいるうちに、なんだか自分とはとても大きく大きな失敗をしているのではないかと気がついた。今まで知らなかったトム・ウェイツの一面に触れ、「創作」に対するこだわりや姿勢に共感し、何度も聴いてきた曲のバックグラウンドを知り、再度魅了されてしまった。今回行かなかったら一生後悔する。すでにコンサートの前々日、ダメもとで会場のHPを覗いて見ると、今でも不思議なのだが、ひょいとチケットが購入できた。この本を読んで触発され、よりいっそうトム・ウェイツの世界を体感することができた。読んで良かった。

評判本の『トム・ウェイツ 素面の、酔いどれ天使』に、いや看板娘の秋山あいさんに興味を覚えられた方はぜひ、ジュンク堂パリ店を訪ねてください。

城山隆(書籍編集者&ライター)

この本を読み始めてから持っているアルバムを全てiPodに入れ、パリ→郊外、郊外→パリを繰り返している。読みながらそれぞれのアルバムや楽曲を聴くのがすごく楽しい。RERで聞く「Down Town Train」はとてもいい。なにせ、リアル・ロードムービー。お勧めです。また、城山さんのライブレポート&PRページにはウェイツ情報が満載。さらに、城山さんとトム・ウェイツ 1999年のインタビューのリンクもあるので必見です。(あ)



モーツァルトが求め続けた「脳内物質」
須藤伝悦 講談社+α新書 15.90€

永遠の謎だった「モーツァルトの奇跡」。その鍵は「ドーパミン」にあった！名曲は体を癒す！初めて明らかになった「奇跡の効能」。快感物質の謎を解く。(出版社コメントより)



一冊でわかるオペラガイド 130 選
観て、聴いて、五感で楽しむ魅惑の舞台
山田治生 成美堂出版 26.70€

裏切り、殺人、不倫、そして「色恋で死ぬ」。それは、現実ばなれた甘美で激しい夢の中の愛の物語。『椿姫』『蝶々夫人』『セビリアの理髪師』など、世界の名作オペラ 130 のストーリーをわかりやすく解説。古今の名作オペラを鑑賞する際の見どころ、聴きどころ、CD/DVD 名盤を選びすぐって紹介。(出版社コメントより)



オペラの快樂 上
相沢啓三 宝島社文庫 9.50€

オペラとは何か？ どういうオペラがあるのか？ そして、オペラはどのように歌い演じられてきたのか？ また、聴き手はオペラをどう受けとめてきたのか？ 本書は以上の問いにまとめてこたえた、壮大な試みだ。初心者にとってはまたとない入門書であり、オペラ愛好者にとっても「通」になるための格好の案内書である。単行本刊行後 15 年以上の歳月を経て、ついに上下巻の文庫版で登場。(出版社コメントより)



オペラの快樂 下
相沢啓三 宝島社文庫 9.50€

本書は年季の入ったオペラ好きによって書かれた、四百字詰め原稿用紙千枚に及ぶ力作の下巻だ。叙述の流れはそれ自体オペラのように変幻して読者の心をわしづかみ、ひっぱってゆく。読者は、オペラというものが、どれほど人類の原始に通じ、知的な遺産、芸術的な遺産を取り込んできたか、そしてそれを観客に対してどれほど惜しげもなくふるまってきたか、目の当たりにするだろう。(出版社コメントより)

www.junku.fr

パリ・ジュンク堂書店、ホームページ。各地よりインターネットでご購入いただけます！

